

SPECIAL TOPIC  
 特集1  
 03 **「学生ボランティアセンター  
 西和賀出張所」開所報告!**

Link Web IPU  
 このマークの記事の詳細は  
 岩手県立大ホームページに  
 掲載しています。  
 URL / http://www.iwate-pu.ac.jp/



CONTENTS

02 TOPICS	08 県大YELLS 県大同窓会
04 特集2 トークセッション 教員と学生による対話集VOL.4 <b>課題にそった 正しい問いを立てよう!</b>	09 卒業生紹介
06 特集3 Look for a seminar! ~自主的ゼミ選択のススメ	10 在校生紹介
	12 IPU通信

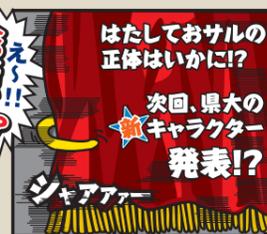
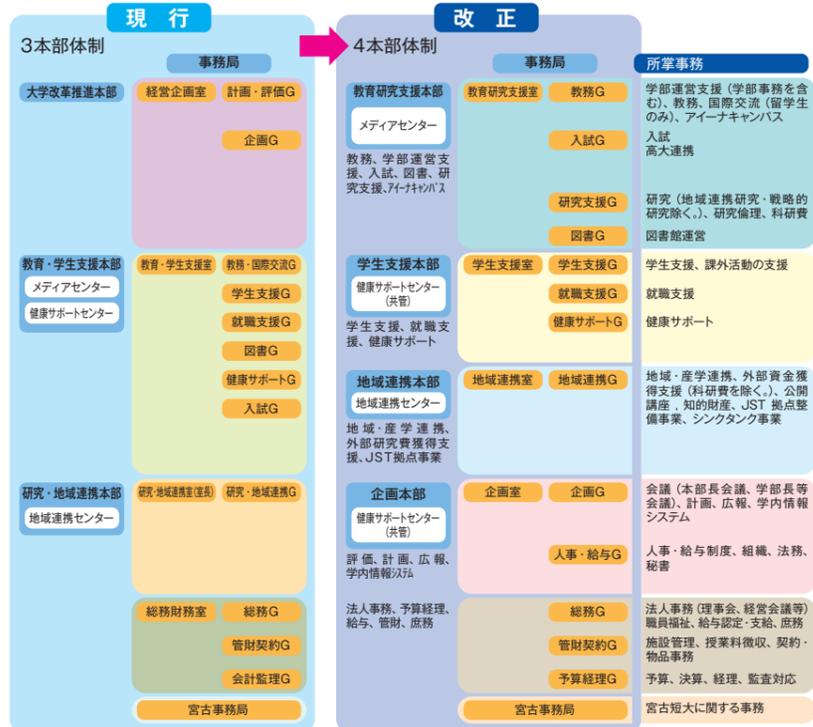
**大学の組織体制が変わります 人材育成と地域貢献の充実・発展を推進する新体制へ!!**

岩手県立大学では、平成23年度から次期中期目標・中期計画期間において、地域中核人材の育成と地域貢献に重点的に取り組む方向で検討を進めています。そのため、平成22年度より本部体制を見直し、目標・計画の円滑な推進を図る新体制を確立します。

**主な改正内容**

- (1) 学部の教育・研究活動の支援体制強化と学生サービスのさらなる充実を図るため、「教育・学生支援本部」を「教育研究支援本部」と「学生支援本部」の2本部体制とします。
- (2) 地域連携の拡充及びJST拠点整備業務の対応を図るため、「研究・地域連携本部」が担当している地域・産学連携部門等を独立させ、「地域連携本部」を新たに設置します。
- (3) 「大学改革推進本部」の名称を「企画本部」に改めます。

**組織改正(平成22年4月1日施行)**



**人事情報**

- 退職(平成22年3月31日付)  
 副学長 幸丸 政明  
 看護学部/教授 菊池謙一郎  
 看護学部/准教授 金野マサ子  
 社会福祉学部/准教授 潮村 公弘  
 社会福祉学部/講師 小池 隆生  
 ソフトウェア情報学部/教授 阿部 芳彦  
 ソフトウェア情報学部/教授 若林 光次  
 総合政策学部/教授 山田 一裕  
 盛岡短期大学部/教授 吉原 隆  
 宮古短期大学部/准教授 金澤 俊吾  
 共通教育センター/教授 松本 裕司
- 採用(平成22年4月1日付)  
 社会福祉学部/准教授 小澤 昭彦  
 社会福祉学部/講師 田村 達  
 社会福祉学部/講師 宮寺 良光  
 ソフトウェア情報学部/講師 後藤 裕介  
 ソフトウェア情報学部/講師 高木 正則  
 総合政策学部/教授 渡谷晃太郎  
 総合政策学部/講師 茅野 恒秀  
 総合政策学部/講師 新田 義修
- 昇任(平成22年4月1日付)  
 看護学部/助教 安藤 里恵  
 看護学部/助教 及川 正広
- 看護学部/助教 三上千佳子  
 看護学部/助教 渡辺 幸枝  
 社会福祉学部/教授 中尾美知子  
 社会福祉学部/教授 宮城 好郎  
 社会福祉学部/准教授 鈴木 力雄  
 社会福祉学部/准教授 中谷 敬明  
 社会福祉学部/准教授 渡辺 道代  
 ソフトウェア情報学部/准教授 藤原 康宏  
 総合政策学部/准教授 柴田 但馬  
 総合政策学部/准教授 見市 建  
 総合政策学部/准教授 山本 健  
 総合政策学部/講師 島田 直明  
 盛岡短期大学部/教授 菅原 正子  
 盛岡短期大学部/准教授 三須田善暢

**国際協力のためにアジアの国々を訪問**

**大塚英彦さん 総合政策学部4年**

大学入学当初に学内メールの勧誘から盛岡YMCAのボランティアリーダーとなった大塚さん。盛岡でのYMCAの活動が縁となって、国際協力のためにスリランカ、ラオス、東ティモールなどアジアの国々を訪れることになりました。

アジア各地での体験を通してアジアでの国際協力への関心を高めた大塚さんは、4年の後期を残して2年間休学し、国際協力ボランティアスタッフとしてタイに行くことを決意。タイの北部、チェンマイに近いバヤオ県の農村部にある児童養護施設に、横浜YMCAからボランティアとして派遣され、現地の子どもたち約45人と共同生活を体験しました。この施設は人身売買の対象となるおそれのある子どもたちを保護収容する目的を持っており、大塚さんはそこで働くスタッフの中で唯一の外国人でした。

「現地タイ人スタッフと施設のあり方について議論を重ね、その運営に取り組んできました。国際協力とは、現地の人にとっての日常に参加し協力することです。地域の課題をしっかりとらえることが重要です。グローバルな視点をもつためにも地域をしっかりと考えることが大切なのだと思います」という大塚さんは、さらなるステップを目指して、4月から横浜YMCAでの活動に舞台を移します。



大塚英彦さん  
タイの子どもたちと脱穀作業

東ティモール現地スタッフと子どもたち

活動日程

2/19

出張ボランティア in 西和賀第一日目
●高橋典成さん宅訪問
●山荘訪問



2/20

●長瀬野会館でホームステイ児童とふれあい
●長瀬野会館の除雪
●沢内バーデンにて入浴〜以後、活動後の恒例となる
●地域のみなさんと打ち合わせ

2/21

●川舟公民館で老人クラブと交流
●湯川ハウスで雪かき

2/22

●Fさん宅の雪かき
●何軒かお家を回り挨拶
●人形劇の背景製作(地元婦人会からの依頼)



2/23

●「ワークステーション湯田・沢内」でボランティア
●高橋典成さん宅で学生主催の土鍋交流
●西和賀名物のおやつ「ビスケットの天ぷら」を知る

2/24

●「せんだん保育所」子どもたちとソリ遊び
●「かたくりの園高齢者生活福祉センター」にてボランティア



2/25

●Bさん宅の雪かき
●山荘周辺と長瀬野地域を巡回し、新たなニーズを探す
●夕方、Bさん宅で8名の学生が鍋パーティ

2/26

●映画「葦牙(あしかび)」上映会のために近隣を宣伝カーで巡回
●午後より天候が悪化(大雨)のため、巡回は中止。

2/27

●「共同生活介護事業所 湯川ハウス」で交流
●長瀬野地域の巡回

2/28

●西和賀の子育てを考える「映画とシンポジウム」お手伝い



高橋典成さん NPO法人輝け「いのち」ネットワーク代表・和表会会長

ふれあいから多くを感じとってほしい
県大だけでなく私たちにとっても10日間という比較的長期にわたってボランティア活動を受け入れる取り組みは初めてでした。しかも泊まりこんでですから学生さんは大変だったでしょう。継続的に高齢者の方とふれあうことで、生きたものをたくさん感じとってほしいと思います。地域の方も若い学生とふれあうことがきつとうれしかったはずですから、今後の活動に期待しています。



Link Web IPU 特集1 SPECIAL TOPIC

「学生ボランティアセンター」西和賀出張所「開所報告！」

ボラセンの仲間たちが冬の西和賀に出張所を開きました。汗と涙と笑顔の体験報告です！

期間限定ボラセン出張所開設 2月19日〜28日

県大学生ボランティアセンター(ボラセン)では、学生の発想や地域の要請によるさまざまな企画プロジェクトが生まれ、多彩な地域貢献活動が継続して行われています。なかでも、土鍋をツールとして活用している「Do Nabenet」の地域交流活動はユニークな存在として知られています。土鍋を囲めば誰でも笑顔が浮かんでいきます。楽しい会話に交流の輪が広がります。そんな土鍋を持ち込んで、ボラセン有志の学生たちが西和賀町沢内長瀬野

地区に「学生ボランティアセンター 西和賀出張所」を開設しました。2月下旬の10日間、期間限定の取り組みです。なお、活動の詳細は、Web版IPUにおいて紹介していますので、ぜひご覧ください。和賀川の水に位置する「長瀬野」と和賀川支流の七内川と和佐内川にはさまれた「沢内」の2つの地区からなる長瀬野町行政区が今回の活動の主な舞台です。世帯数80戸、約250人が暮らす小さな集落です。水稲主体の農業と花卉栽培(リンドウなど)が営まれ、豊かな食文化が残る地域として知られています。

2/25 雪かき、そして鍋パーティ



2/23「ワークステーション湯田・沢内」でボランティア

活動の詳細は、Web版IPUへ！

活動を終えて

若者との交流が求められています



阿部美智子 社会福祉学部1年
雪深いこの地域では、雪かきもさることながら、「若者との交流」がニーズとして浮かび上がってきました。私は5日間



八重樫綾子 (ボラセン)西和賀出張所代表
社会福祉学部2年
何よりも地域の方が学生を受け入れてくれる懐の深さや人情温かいやさしさに感謝しています。今回の経験を生かして、年間を通じた活動として継続したいと考えています。興味ある人はぜひ参加してください。

継続した活動に発展させたい

Link Web IPU

異文化理解のためのワークショップ開催

盛岡短期大学部国際文化学科では、1年後期「多文化共生論」の参加型授業の一環として、(財)岩手県国際交流協会と協力してワークショップを計6回開催しています。今年度最終回となる1月12日は、吉田武夫氏(岩手県立盛岡商業高校教諭)を迎えて「多文化共生・異文化理解を再考する～内なる異文化と多文化共生～」をテーマにワークショップが開かれました。



平成21年度「卒業研究成果発表会」開催

県大では、卒業を間近にひかえた2月、毎年恒例となっている「卒業研究成果発表会」が各学部ごとに開かれました。2月9日に開かれたソフトウェア情報学部の卒業研究成果発表会では、4年生全員が卒業研究の成果を発表。多くの在校生を集めて、多彩な研究テーマについて活発な意見の交換が行われました。



「学生研究プロジェクト(PBL)成果発表会」開催

2月19日、アイーナキャンパス(いわて県情報交流センター7階)において、ソフトウェア情報学部の学部生・院生による「学生研究プロジェクト(PBL)成果発表会」が開かれました。PBLとは、学生が自主的に結成したチーム単位で、自主的に企画した研究開発プロジェクトを行うもので、ゼミ横断的な研究や自由な発想が生かされた研究が多いのが特徴。毎年行われる発表会は広く県民にも公開されています。



晴れやかに、そして華やかに、旅立ちの春を祝う！平成21年度「学位記授与式」挙行

平成21年度の学位記授与式において、岩手県立大学440名、大学院博士前期課程45名、博士後期課程4名、盛岡短期大学部106名、宮古短期大学部105名(合計700名)の学生・院生が、旅立ちの春を迎えました。式典は、宮古短期大学部学位記授与式が3月19日に、岩手県立大学と大学院及び盛岡短期大学部の合同による学位記授与式が3月23日に挙行され、学位記授与式の後に各学部ごとに分かれて、学部・研究科別に伝達式が開かれました。

高い志とその成果を讃え表彰します！

平成21年度学生表彰(学長特別表彰)

個人表彰

(ソフトウェア情報学部)

●今 単太・千葉裕介・堀江佑太(研究活動)

E Tロボコン2009北海道・東北大会の二輪車NEXT部門において、総合優勝を収めた。

●泉 由香利(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会インタフェースにおいて、「Google Mapsを利用した調査支援システムの開発」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●佐々木 淳(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会コンピュータと人間社会において、「空中筆記による太さや採れの変化を考慮した筆書き風描画インタフェース」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●田中伸幸(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会コンピュータと人間社会において、「栄養指導システムにおける記録項目カスタマイズ機能の実装と評価」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●熊谷一生(研究活動)

ビジュアル情報処理研究会において、「リボン形状における三次元結び目構造の入力手法の提案」について発表し、Unique Research Award(研究目的が明確かつ独特である研究に送られる賞)1位に選ばれた。

●齊藤達郎(研究活動)

情報処理学会マルチメディア、分散協調とモバイル(DICOM2009)シンポジウムにおいて、「モバイル環境に適した印刷システムの設計と実装」について発表し、ヤングリサーチ賞を受賞した。

個人表彰

(ソフトウェア情報学部)

●鈴木康祐(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会コンピュータと人間社会において、「特定分野・事業の文書集を利用したニュース記事収集システムの提案」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●千葉 豪(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会ネットワークにおいて、「複数ディスプレイ環境の構築」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●馬 欣(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会コンピュータと人間社会において、「小規模事業者における農産物生産・流通システムの開発」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●山下 和彦(研究活動)

情報処理学会第71回全国大会人工知能と認知科学において、「自己組織化マップを用いた動径基底関数ネットワークの構築」について発表し、学生奨励賞を受賞した。

●齊藤達郎(研究活動)

情報処理学会マルチメディア、分散協調とモバイル(DICOM2009)シンポジウムにおいて、「モバイル環境に適した印刷システムの設計と実装」について発表し、ヤングリサーチ賞を受賞した。

団体表彰

●ラグビー部(課外活動)

2009年度東北地区大学ラグビーリーグで優秀な成績を収めた。

●ホームレス支援ボランティア(社会活動)

ホームレス支援ボランティア活動により、自立生活へ導く支援活動を行い社会的に高い評価を得ている。

●DoNabenet(ドナベネット)～地域鍋っこサロン～(社会活動)

地域住民と鍋を囲み交流することで、地域が求めるボランティアニーズを探る等、地域とのネットワークを築いており、社会的に高い評価を得ている。

●2009いわての風～新潟県柏崎市仮設住宅引越しボランティア～(社会活動)

新潟県柏崎市の応急仮設住宅で引越しボランティアを実施し、災害ボランティアが被災地と継続的に関わりを持っている事例は少なく、社会的に高い評価を得ている。

●学生ボランティアセンター「親父キャンププロジェクト」(社会活動)

久慈市のNPOらとともに、「親父養成講座及び親父と子どものアドベンチャー大作戦」を実施し、第2回いわて協働表彰知事奨励賞を受賞した。

●岩手県立大学体育祭実行委員会(その他)

体育祭実行委員会の学生が中心となり、岩手県立大学滝沢キャンパスで初めてとなる体育祭を開催した。



各学部代表者に中村学長より卒業証書・学位記が授与されました。

卒業生代表挨拶は、看護学部の岡本恵さん。

宮古短期大学部学位記授与式

高校時代から  
相談職を考えていました

**菅野** ●初めまして、総合政策学部1年の菅野駿弥です。学生企画コーナーとして始まったトークセッションは、今回で第4回目となります。初めてトークセッションに参加しますので緊張していますけれども、よろしくお願ひします。

**遠山** ●こちらこそ、よろしく。菅野くんは、学業以外にもどんな活動をしていますか。  
**菅野** ●はい、ボラセンの活動に参加しています。それと、盛岡YMCAで水泳ボランティアとして子どもたちと交流しています。

**遠山** ●私は、水泳が得意ではないけれども、子どもたちに水泳を指導しているというところ？  
**菅野** ●指導もしますが、一緒に遊ぶという感覚に近いです。子どもたちとの交流がメインです。

先生からアドバイスをいただきたいと思っと思っています。よろしいでしょうか。  
**遠山** ●なんでしよう。  
**菅野** ●僕は、まだ1年生なので、明確な進路というか将来設計が定まっています。悩んでいるというほど深刻には考えていないのですが、当面は総合政策学部の環境・地域コースに進もうと考えています。先生は、いつごろから将来を考えるようになったのですか。

**遠山** ●高校のときから人の役に立つ仕事をしたいと考えていました。間接的ではなくて直接的に役立つカウンセラーなどの相談職になりたいと思っていました。  
**菅野** ●先生の質問のおかげで受験勉強が



**遠山** ●私は大人じゃないと言ったとき、大人とは何かを定義することは難しい。どう見てもあの人は大人だという人がいるのはわかる。けれど何を大人と言いたいのか明確ではないね。つまり、問いを発している自分はどういう大人をイメージしているのかを問うことが必要。問いかけ自体を問うということですね。

問いを検証し  
答えをさがす過程が大事

**遠山** ●社会的な課題に対する問題意識や自分の中で葛藤する個人的なことについて問題意識があったとしても、問いの出し方、アプローチの仕方、解決に向かう場合も迷宮に向かう場合もある。ですから課題にそった正しい問いを立てることが重要ですが、何が正しい問いかを問いかけることも大切。疑問があれば、繰り返し問いを検証し答えをさがす過程が大事です。

大きなテーマであってもそれは何を問う問いであり、答えはどういう形で示されれば良いかがわからないと考えるようがない。答えは要らない、ただ考えていたい、というふうなら別ですが。



嫌だったことを思い出しました(笑)。  
**菅野** ●どんな大学時代を過ごされましたか。僕らとだいぶ違いますか。  
**遠山** ●私は、学生紛争の後の世代です

課題にそった正しい問いを立てよう!  
～迷宮に迷い込まない発想法～

教師と学生が身近な話題から現代社会の問題まで自由に話し合うトークセッション。  
講義では聞けない疑問、珍問なんでもありの学生企画コーナーです。

Cast  
遠山 宜哉 社会福祉学部教授  
Toyama Nobuya

菅野 駿弥 総合政策学部1年  
Kanno Shunya



あえて問題を意識して  
探すことも必要

**菅野** ●特に問題意識の無い学生が、問題意識を持つにはどうすればいいのでしょうか。  
**遠山** ●ひとまず、問題意識の無いことを嘆く必要はないと言いたい。自分が何に向いているかとか向いていないかとか悩む

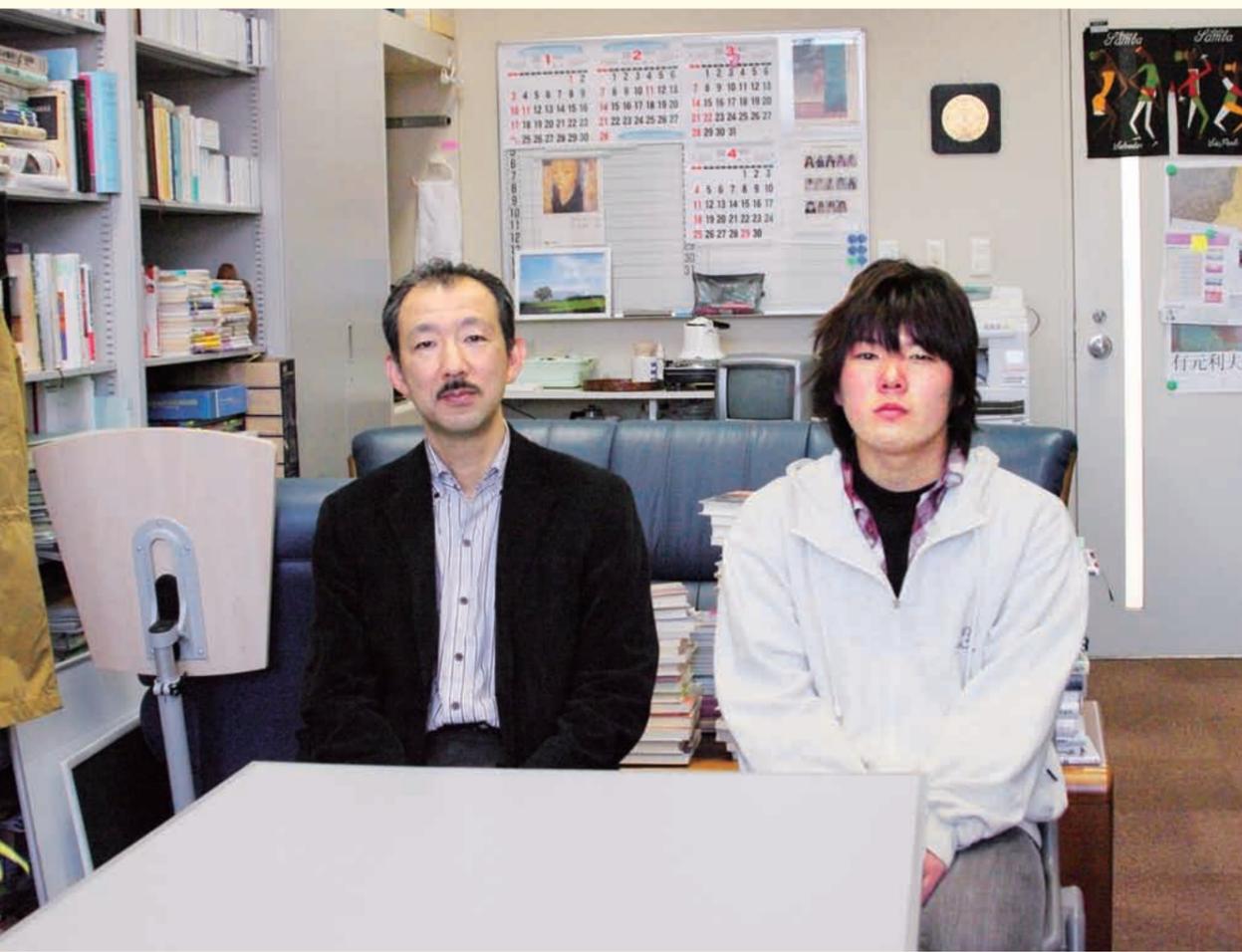
必要も無い。私は何に向いているんだらうという問いに問題があるのです。極論を言えば、そんなことは死ぬまでわからない。むしろ、今、自分が何に困っているのか真剣に考えること、あるいは真剣に困っている人にぶつかってみることです。そっでなければ問題はみつからない。真剣に困っていることに向き合っ初めて、どっついつい自分に関心があつて、

れども、その名残があつて、高校時代は表現活動の自由がありませんでした。私の世代と菅野くんの世代を比べようという発想はまったくない。今の学生はどうかとか、昔の学生と比べてどうなのかという問いかけよりも、どんな問題意識を持っているかを自分に問いかけることが大切ですね。  
**菅野** ●先輩たちを見ると、あまりにも自分とは違つて大人だなと感じていて、僕はあんなになれるのか、なれそうもないと思つてしまいます。

遠山教授は、社会福祉学部福祉臨床学科福祉心理教育群において、心理学的な発想と方法を基礎とした福祉へのアプローチについて、専門教育を行っています。



学生ボランティアセンタースタッフ。小学生より水泳が得意で、高校では水泳部に所属し東北大会出場経験をもつ。盛岡YMCAでは水泳ボランティアとして、小学生の指導に当たっている。



東北大学大学院文学研究科博士課程前期修了。文学修士。臨床心理士。東京少年鑑別所鑑別課課法務技官、川越少年刑務所分類審議室法務技官、弘前大学保健管理センター助教授を歴任。1998年、本学社会福祉学部助教授に就任。2004年より教授。日本ブリーフサイコセラピー学会理事。研究領域は、ブリーフセラピー、心理療法における言語。担当科目はカウンセリング、教育相談論。

どういう事を問題とすべきかが見えてきます。ですから、あえて問題を意識して探すことも必要です。  
**菅野** ●これまで、限られた時間のなかで、こんなに集中して考えることは無かつたように思います。学生時代という時間有意義に過ごせそうな気がしてきました。ありがとうございました。



# Look for a seminar!

## ～自主的ゼミ選択のススメ

ゼミとは何?ゼミでは何をやるの?という素朴な疑問から、ゼミ選択の秘訣まで、総合政策学部ゼミ冊子編集チームが、ゼミ選択を考える際に生まれる疑問に答えてくれました。

特集3  
ゼミを知り、  
学び、選ぶための  
アドバイス  
[総合政策学部編]  
ゼミ冊子編集チームが  
案内します。



**氏原史恵さん**  
総合政策学部2年、盛岡第四高校出身。経営と経済の分野から地域と活性化に関わりたくと考えています。地域の人と交流し、顔を合わせながら学問を深めたいと思います。学問に誠実な姿勢のみえる専門家のいるゼミを選びました。

**丸山千尋さん**  
総合政策学部2年、盛大附属高校出身。行政・経営コースのゼミを選択。地域活性化や地方自治財政に興味があり、3年次からフィールドワークを楽しみにしています。相手の顔の見える学問をやりたいと考えています。

**細川南望さん**  
総合政策学部1年、盛岡第二高校出身。今のところ地域・環境コースを考えています。ゼミ冊子の制作を通して、コース選択と職業選択は必ずしも関係があるわけではないと知りました。自然豊かな岩手に住んでいるので、自然や環境について専門を深めたいです。

ゼミさがしは自分探しでもあるのですよ!



**丸山** ●ゼミ冊子制作は、これまでアンケート形式で行われてきましたが、今回初めてインタビュー形式を採用しました。それぞれの研究室を訪ねることで、冊子制作のアイデアを引き出すことができました。ただ、企画の提案や研究室のアポイント取りやなにやら忙しかったですね。  
**氏原** ●先輩や教員の生の声を聞くことで、専門を深めることの意味がよくわかりました。あらかじめ決めた質問以上の答えを聞くことができたのが良かったですね。お会いしなければわからないことがたくさんあった気がします。詳しくは、ゼミ冊子を見てください。  
**細川** ●編集チームの先輩と一緒に制作に取り組んだので、ゼミとは何かという素朴な疑問の答えがみつかった気がします。まだ、1年生だから余裕があるなどという気持ちが無くなったというか、しっかりゼミのことや専門コースのことを考える良い機会になりました。

### なぜゼミ冊子が必要?

**丸山** ●なんと言っても、ゼミについての情報量が少ないということがありますが、もちろんゼミのあることや、3年になる



受け身でなくて能動的に興味を探そう!

専門演習につながる学問ですから、必然的に自分のテーマを探さすきかけになります。

### ゼミ選択のアドバイスあれこれ

#### ゼミ冊子は基礎資料

**丸山** ●ゼミ冊子は、あくまでも参考資料です。これを見ることで、興味や関心を呼び起こしてほしい。そして、なによりも話を聞きに研究室に行くべきです。

**氏原** ●気になることがあったら、聞きに行く姿勢が大事。先生も学ぶ意欲のある学生には親身に答えてくれますよ。

#### 問題意識をもって研究室を訪ねよう

**氏原** ●研究室を訪ねて知ることはいっぱいですが、具体的な質問をもって訪ねた方がいい。ただ漠然とでは歓迎されません。  
**丸山** ●ゼミに入る際でも研究室の個性を知らずに行っても歓迎されないかもしれません。学問でも社会情勢でも人生相談でもなんでもいいけど、問題意識をもって訪ねること。自分の課題やテーマについて訪ねた研究室で専門を深めることができるかどうかを確かめるのは学生自身です。

#### オフィスアワーを活用しよう

**丸山** ●臆せずためらわず、積極的にと言いたいのですが、研究室のトビラは固い



慌てず!騒がず!押されずに!

とゼミ配属になることは知っていましたが、どんな先生が何を研究しているかは、ほとんど情報がなかった。  
**氏原** ●ゼミって何という基本情報が少ないと思いました。3年生になる直前に、ゼミについて知るといっては遅すぎるでしょうね。やっぱり、もっと前からコース選択やゼミのことを知りたい。その意味で言うと、ゼミ冊子の制作も直前すぎた反省しています。もっと早く取り組みたかったし、学生にもっと早く伝えられたですね。

### ゼミ選択の前にコース選択を考える

#### コース選択を考えるタイミング

**氏原** ●学生は、ゼミ選択の前にコースの選択をする必要があります。選択コースが決まらなければ、ゼミを考える段階にならないので、自分がどのコースを選ぶのかを早い時期に決めた方がいいと思います。  
**細川** ●1年生だから感じることもかもしれないのですが、ゼミ冊子の制作に関わる前までは、あまりコース選択を考えていなかった気がします。ですが、早い時期から気にかけていた方がいいなと思うようになりました。ゼミ冊子だけでなく、いろんなところでゼミ情報があるといいなと思います。

**丸山** ●基本は、やっぱり自分で資料を探さなり、直接、研究室を訪ねるなどしないとわからないことのほうが多い。コース選択を考えるタイミングとしては、私は2年次の始めには考えた方がいいと思います。2年次の基礎演習は、3年次の

と知っている学生もいるでしょう。そこで、オフィスアワーに訪ねることをおすすめします。トビラが固いと思うのは、最初だけだと思います。  
**細川** ●私は、あれこれ悩む方かもしれないのですが、悩むというか考える時間をもっとほしいと思います。だからこそ早くゼミ情報ほしいと思いました。オフィスアワーも自由に研究室を訪問できる時間とは考えていなかったかな。早速、活用したいと思います。

### 編集チームのまとめ

#### 情報収集・行動は早いほど良い

人によるとは思いますが、情報収集・行動は早いほど良いでしょう。考える余裕ができます。

#### 何を学びたいかを見定めるのが先

自分の学ぶテーマが見えてきた頃に、一度集中してコース選択のこと、ゼミのことを考えましょう。何を学びたいか追求したいテーマは何かを見定めるのが先。

#### ゼミ選択の前に先生と話しておこう

学びのテーマや自分の興味が定まらず悩んでいるようなら、気になる先生とお話することをすすめます。オフィスアワーを活用しましょう。

### 先輩からのアドバイス

#### (ゼミ冊子より)

- 研究室を訪ねる
- 先生との相性を見極める
- 普段の授業でアンテナを張ろう
- 卒論を見こした選択を
- 先輩の話の聞き方



### 平成21年度版「ゼミ冊子」

「ゼミ冊子」は、総合政策学部の1年生と2年生の有志が集まって、学部にどんなゼミがあるのかを紹介する学生編集制作による冊子です。ゼミ紹介ページには、基本的な情報の他にインタビューによって集めた新たな情報やゼミ所属の先輩によるイラストを添えたユニークなコーナーもあります。

### 総合政策学部ゼミ冊子編集チーム

- 代表 丸山千尋さん(2年)  
副代表 佐藤 瞳さん(2年)  
氏原史恵さん(2年)  
細川南望さん(1年)  
高橋香澄さん(1年)  
三上晴夏さん(1年)



### カリキュラムの概要 [総合政策学部]

1年次	2年次	3年次	4年次
専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目	専門基礎科目
基幹科目	基幹科目	基幹科目	基幹科目
情報・数理科目	情報・数理科目	情報・数理科目	情報・数理科目
展開科目	展開科目	展開科目	展開科目
演習科目	演習科目	演習科目	演習科目
コース選択	コース選択	コース選択	コース選択
		専門演習[ゼミ]	専門演習[ゼミ]
		実習科目[行政・経営系]	実習科目[行政・経営系]
		実習科目[環境・地域系]	実習科目[環境・地域系]

# 夢を生きる 卒業生の今を知りたい CAREER MESSAGE

「メッセージ」

## 今の仕事は人間的にも成長できる仕事です

財団法人岩手県予防医学協会県南センター保健師 佐藤 結夏さん  
●看護学部 [平成20年3月卒]

佐藤さんは、健康診断、人間ドック、健康支援、環境調査など予防医学事業を展開するセンター業務の中で、特定保健指導を担当しています。特定保健指導とは、保健師、管理栄養士、運動指導士といった専門家が、一人ひとりの健康づくりを様々な角度からサポートする仕事です。保健師である佐藤さんは、健康診断などの検査結果を基に、健康づくりについて適切なアドバイスを提供するほか、必要であれば健康相談にも応じています。

「看護学部では1年次から実習が多くあり、人と接することが多かったため、早くから健康づくりをサポートする保健師の仕事を考えていました。一人ひとりに合った支援を考え、気づいたことを相談者に合わせて言葉かけをする今の仕事は、自分が人間的にも成長できる仕事だと思います」

佐藤さんは、大学時代を思い起こすと夢中で勉強していた日々を思い出します。しかし今は、勉強することが楽しくなったといいます。学んだことがすぐ身につくプロの現場の楽しさと厳しさを感じています。



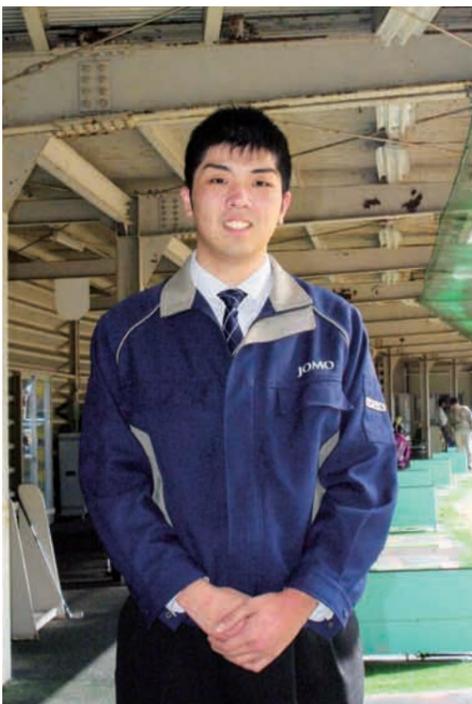
## 先生や友人たちとの交流が心の支えです

株式会社丸光商事 千葉 貴大さん  
●宮古短期大学部 [平成21年3月卒]

経営情報学科の経済コースを卒業した千葉さんの専任業務は経理担当ですが、飲食、レジャー、ホテル、LPガス、ストア、サービスステーションなど多彩な事業を展開する企業のなかでは総務的な仕事が多いといいます。入札手続き、ホテルのフロント手伝い、スポーツ事務の機械操作、保険業務など、与えられた仕事に懸命に取り組む毎日が続いています。

「事務所での仕事が多いのですが、事務職を希望していたので自分に合っていると思います。社会人1年生ですから、学ぶことが多く、社長はじめ多くの人に支えられていると感じます」という千葉さん。

千葉さんにとって、大学で学んだことで生かされていることはどんなことでしょうか。「高校、大学と5年間通して学んだパソコン技術や大学で学んだ簿記が仕事に大いに役立っています。そして何よりも宮古短期大学部で得た先生や友人たちとの交流が今の自分の心の支えとなっていることですね。仕事の帰りに同じゼミの仲間と大学に寄って先生と話し込むこともしばしばです」



県大 YELLS のコーナーでは、  
県立大学に寄せられたメッセージをご紹介します。



## 開学時からあったモチベーションを高めあう雰囲気期待

岩手県立大学同窓会関東支部長  
株式会社インターネットイニシアティブ  
(旧)株式会社アイアイジェイテクノロジー  
及川 聡さん

同窓会関東支部は、昨年11月に「関東支部設立総会・交流会」を実施し、動き始めたばかりです。今後、関東で経験を積んで地元岩手へのUターンを志す卒業生に向けたUターン就職の情報や、岩手・県立大学の近況などの情報提供を中心に、親睦会の開催などのイベントも定期的に企画していく予定です。

県立大学の学生には、思ったことや考えたことを行動に移し、形に出来るようになってほしいと思っています。日頃、研究や実習を通して行動し、何かを生み出したりする機会が多いと思いますが、そこだけで満足せずに自分なりの課題を持ち、その課題解決のために持てる力を発揮してほしいと思います。関東近郊への就職を希望する学生も多いと思いますが、就活は、自分をアピールする場であると同時に、社会を知る良い機会でもあります。広い視野を持って活動すれば、就活を通じて自分を成長させる事もできますので、楽しむくらいの心づもりで臨んでください。

県立大学の開学時からあった、何かをやりたい・よりよくしたいと思う人たちが集い、夜まで語り合いながらお互いのモチベーションを高め、いく雰囲気、今後も残っていくことを期待しています。



「関東支部設立総会・交流会」に参加いただいた同窓生のみなさん



## 県立の大学として地域の支えになる大学になってほしい

岩手県立大学同窓会岩手県職員支部長  
岩手県農林水産部流通課  
中村 淳一さん

大学設立後10年以上が経過し、卒業生の数もだいぶ多くなりました。県職員として働くOB・OGも年毎に増えてきております。昨年9月、会員同士の親睦を主な目的として、同窓会県職員支部が発足しました。

学生のみなさんには、自分の思い通りにいかないことも多いと思いますが、不平ばかり言わずに、その解決のために自分はどう関わっていくのか、どんな役割を果たしていくのか、主体的に考えられる人間になってほしいです。県庁への就職を希望する学生には、この岩手をよくしたい、という思いを実現できる場所がきっとあるので、試験は大変ですが、可能性がある限りぜひ挑戦してほしいと思います。

大学には、私たち同窓生をいい意味でうまく利用いただければと思います。学生との橋渡しをしていただければ、就職に当たっての相談など、ご協力できるものはしていきたいと思っています。岩手県立大学が、県立の大学として、地域が抱える様々な問題の解決の支えになっていただける大学になってほしいと願っています。

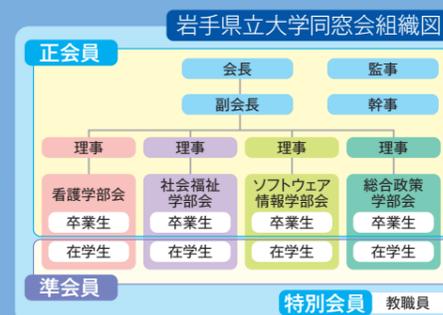


昨年9月に開かれた支部設立交流会の記念写真

## 岩手県立大学同窓会

### 組織

岩手県立大学同窓会(愛称「素心知困の会」)は、第一期生の輩出を契機に、卒業生相互の親睦、母校との連携によりその発展に寄与することを目的として、平成14年3月に発足。在学生も「準会員」。現在正会員は約3,800名、準会員は約2,000名。これに、21年度の卒業生約700人が加わります。



### 活動

- 毎年度、大学祭の開催日に合わせて総会を開催。
- 平成20年10月25日に開学10周年を記念して、「ホームカミングデー2008“あゆみ”」を開催、弓道場建設費の一部負担及び岩手学図書コーナーへ約200冊を寄附。
- 平成21年9月16日、「同窓会県職員支部」を設立。平成21年11月28日、「同窓会関東支部」を設立。

元気です県大生

# 私の未来設計

On Campus

3年生の4月頃に飛び級を決意  
大学院への進学をめざしました

**菅野** 僕は1年生ですが、及川さんが具体的な将来について考えるようになったのは、いつ頃のことですか。3年生から4年生を飛び級して大学院に進まれたのですよね。1年生の僕から見ると、しっかりとした将来設計がなければ、なかなかできることはないと思うのです。

**及川** 3年生から院生に飛び級する場合、いくつかの条件をクリアしていなければなりません。たとえば、一般科目や専門科目の成績評価では「優」が80%なければなりません。また、学部卒論研究と同等の論文を学会に発表し評価されることが求められます。もちろん、大学院に進むための筆記試験と面接もあります。

大学院に進むと決めたことには、いくつかの理由がありました。菅野くんが言うような確かな将来設計があったということでもないのですが、**菊池** それはどんな理由？何か重大な決意のようなこと？

**及川** 重大な決意というより、私にとつての必然性とも言えるようなことです。3年生の春

に所属ゼミの村田嘉利教授から、大学院進学のお話があったときに、自分の将来像を再認識することになりました。というのも、2年生の春には自分の進むべき道をネットワーク関連の仕事に就くことだと思っようになっていたのですが、社会に通用する力を身につけるためにどうすべきかは、まだ決まっていなかったのです。自分なりに学問を究めて、社会の役に立つ人間



聞き手 三橋廣隆さん(総合政策学部1年)、菊池茂さん(総合政策学部4年)、菅野駿弥さん(総合政策学部1年)

## どのように学ぶことが良いのかを 追求することのできる場が大学院だと思う

実現させるためには、大学院へ進学するのがベストということでした。それからは、心を決めてひたすら勉強あるのみです。大学院進学が認められたときは本当にうれしかったです。

### 専門研究はスキージャンプ即時解析

**三橋** 及川さんは、大学院でどんな研究をされているのですか。

**及川** 具体的な研究テーマは、いくつかありますが、現在はスキージャンプの選手に加速度センサーをとりつけて、飛び出し動作のデータ化を進めています。学部生の時から取り組んでいるテーマでもあります。地磁気・加速度センサーをスキージャンプ選手に装着し、飛び出すときの動作をデータ化するシステムの開発です。

ITの世界、情報の世界で  
自己実現することよりもむしろ  
世の中の役に立ちたいと考えています。

ソフトウェア情報学部  
ソフトウェア情報学研究所  
博士前期課程1年  
村田ゼミ(データベースシステム学講座)  
及川正基さん



ね。飛び出す瞬間の即時データを解析することで、踏み出す瞬間のポイントを把握することができます。これによって選手の特徴をつかんで選手強化につなげることができるようになっています。

### 勉強の仕方を勉強できる 大学院の学びの世界

**三橋** 1年生の僕にとっては、大学院はまだ遠い存在に思えるのですが、大学院とはどんなところですか。

**及川** 私は、大学院は勉強の仕方を勉強できる場だと考えています。人間は一生勉強を続けなければいけないと思うのですが、勉強の仕方について学ぶことのできる機会は多くはありません。何を勉強したいかは容易に思いつくことができますが、どのように学ぶことが良いのかを追求することのできる場や機会は少ないと思います。研究を進める中では、仮説をたて、仮説を検証し、検証結果を整理して、また新たな仮説を生み出す作業を繰り返します。大学院での専門研究を進める過程は、究極的には勉強の仕方を勉強していると言えるのです。

### 夢を実現したいというより 社会の役に立つ人間でありたい

**菊池** これからのような道に進もうと考えていますか。

**及川** ネットワーク通信の世界や社会に具体的に関わる開発職などに進みたいと考えています。私は、夢を叶えることも大切だとは思いますが、夢の実現を考える前に、社会に役立つ存在になりたいのです。ITの世界、情報の世界で、世の中の役に立ちたいと考えています。それが第一の目標ですね。



及川さんのストレス解消法は歌うこと。知る人ぞ知る美声の持ち主です。写真は、外部イベントに出演中の及川さん

大学院生の研究室は和やかな雰囲気に包まれています

学部生にアドバイスするのも大学院生の役割です

研究テーマの内容を熱心に説明する及川さん

及川さんの専門研究テーマはスキージャンプ即時解析。スキージャンプ競技選手にセンサーを装着し、カメラとパソコンによる解析研究を進めています